別紙様式1

令和8年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）　　学校名　三原市立大和中学校　　校番（ 30 ）

a 学校教育目標	夢や目標に向けて、自ら考え、行動できる生徒の育成 ～学び合い、高め合い、地域・社会に貢献する大和中生～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）他者と協働し、課題の解決に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】（自校の将来像）生徒が「学んでよかった」、保護者が「通わせてよかった」、地域にとって「地域の宝」と思える学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	評価 ロ	評価 ハ	m コメント
確かな学力	基礎・基本の定着・向上を図り、活用する力を育成する。	基礎・基本の定着を図るため、授業改善を推進する。	①「R80」を核とした授業デザインをもとに、振り返りの充実を図ることで授業改善に努める。 ②「選択肢」と「自己決定」のある単元開発を行う。 ③学力に課題のある生徒への個別指導を計画的に行うとともに、放課後学習等の充実を図る。	①「授業がよくわかる」という生徒アンケートの肯定的評価【研究】 ②学力定着調査偏差値平均【教務】	①85% ②57%	①89% ②12月実施予定		①105%	①A	①授業の振り返りR80の記述内容をイメージし授業設計することで、授業内容と振り返りの繋がりができたことが結果に出ていると考えられる。「選択肢」と「自己決定」のある課題提示等も工夫している。 ②学力調査が12月に行われるため、継続して取組を進める。	①単元構想の時点で「選択肢」と「自己決定」のある課題提示や授業の振り返りR80の記述内容をイメージし、授業改善を継続していく。 ②放課後の学び直しの時間を引き続き実施していく。また、確認テストで定着度を把握し、個に応じた問題に取り組めるようにする。	○			・生徒が落ち着いて学習することができている。授業のめあてを確実に示すとよい。 ・「授業がよくわかる」という生徒アンケートが目標を達成しており素晴らしいと思う。 ・目標値は達成しているが評価方法の適正判断は現在の提示資料では判断が難しい。 ・R80の記述内容が結果要因となっている背景を他校や三原市全体の偏差値等比較できると関係がより理解しやすくなる。
豊かな心と健やかな体	積極的生徒指導の推進と心身の健康の増進を図る。	生徒理解に努め、組織的な生徒指導・生徒支援を進める。	①「ふれあい教室」の有効活用、SCや関係機関との連携など、組織的な不登校支援を進める。 ②定期的な個人面接や生徒支援委員会等の実施により生徒理解及び情報の共有に努める。	①週1回の生徒支援（生徒指導）委員会【生徒指導】 ②「学校が楽しい」という生徒アンケートの肯定的評価【生徒指導】	①100% ②85%	①100% ②86%		①100% ②101%	①A ②A	①生徒支援委員会は毎週火曜4時間目に実施。また、5月から、SCによる全生徒対象の面談や、9月にSCによる授業を実施し、生徒自身がSOSを発進できるような体制の構築に努めた。 ②学年間の差があり、2年生が特に低く肯定的な意見が85%であった。支援の必要な生徒が否定的な回答をしている傾向にあるため、家庭や関係機関との連携を行っている。	①生徒支援委員会を中心に、生徒連携を行い、不登校対応に取り組む。ふれあい教室についても、生徒が前向きに活用できている。今後も教職員、関係機関で連携し、生徒への支援を検討していく。 ②学習環境の整備をより丁寧に行うように呼びかけ、2学期がスタートしている。事案や課題に対し、生徒自身が考え、決定していく場面を大切にしていき、自己指導能力の育成に努める。	○			・総合的な学習の時間【探究学習】において、生徒たちは班での話し合いや協力の中で主体的に進めているように思う。生徒自身はもちろん、仲間ともたくさんの気づきや発見を得られていると思う。 ・探究学習は、先生方やアテンドについてくださる様々な大人を頼ったり力をかりたりしながら、大きく成長できる素晴らしい授業だと思う。 ・長欠、不登校の生徒数の割合が多いと思われる。個に寄り添った対応の継続をお願いします。 ・自己指導能力の視点である「自己存在感を与える」「共感的な人間関係の育成」等への配慮をさらに強化されることを願う。 ・目標値は達成しているが評価方法の適正判断は現在の提示資料では判断が難しい。アンケート結果と分析内容の関係性について数値的な考察をお願いします。
		新たな価値を創造する資質・能力の育成に向けて、探究的な「総合的な学習の時間」を充実させる。	①・探究的な学びを中核としたカリキュラムの開発・実践の取組を生かし、生徒、地域、学校の実態に応じた更なる改善を図る。	①「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え自分で取り組んでいる」という生徒アンケートの肯定的評価【研究】	①80%	①85%		①106%	①A	総合的な学習の時間において、「自分の好きなこと・得意なことを生かす活動」を取り入れ、探究的な学びをしていくことが生徒たちに浸透し、課題意識をもって取り組む生徒が多く見られるようになった。しかし、課題解決に向けて、何をすべきか考えることができていなかったり、見通しがもてていなかったりする生徒もいる。	総合的な学習の時間の各サイクルの課題の設定の場面で、過去の探究の流れを想起させ、計画を立てることができるようにファシリテートする。	○			
		基本的生活習慣を確立させる。	①金のルール「早寝・早起き・朝ごはん・読書・挨拶・靴そろえ」の向上を図る。特にスクリーンタイムの改善を図る。	①「スクリーンタイム」の平均【保健・生徒指導】	①3時間30分以内	①3時間40分		①97%	①B	「早寝をしています。（23時までには寝ています。）」の肯定的評価が72%と低い傾向がある。他と比べて高くなっている。（昨年度86%）帰宅後の時間の使い方（スマホ等の電子機器）による影響を大和中学校区共通の課題であり、継続して声掛けを行っている。また本年度10月11日から始める「元気ウィーク」においても、早寝による睡眠時間の確保を目指して、生徒への指導にあたる。	基本的生活習慣を整えることが健康や学習の基盤であることはもちろん、成長期の支えとなり将来につながっていくことについて、関連教科および学活等で伝えていく。また、「元気ウィーク」を健康的な生活習慣を実践する機会とし、日常を見直す取組となるよう、生徒委員会活動の取組との関連を図りながら継続していく。	○			
信頼される学校	地域・保護者と連携を深める。	地域に貢献する体験活動や自治活動を推進する。	①地域の方とのつながりを大切にし、日頃の感謝の気持ちをもって地域貢献活動に取り組む。 ②生徒会活動、委員会活動を活性化させ、自治的な活動を進める。	①「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という生徒アンケートの肯定的評価【研究】	①80%	①76%		①95%	①B	アンケート実施時期が7月ということもあり、総合的な学習の時間での取組が成果発表まで至っていなかったため低い結果となったが、昨年と比較しやや高い結果となったのは、地域とのつながりを意識した内容を継続している成果であると考えられる。 委員会活動等についても、課題をどう解決していくのかという活動の方向性を各委員会とも共通していくことで、目的意識の向上を図ることができてきている。	①単元の終末に、教員および第三者からのアンケート結果などの肯定的評価やCSの方からの評価を返していく。また、次年度に向けて、これまでの取組を生かすことで解決できそうな問題を考えるところまで指導する。 ②各委員会の目的や解決を目指す問題を設定し、取組と目的の整合性を確認する指導を継続する。	○			・方策に「地域貢献活動に取り組む」とあるので、具体的評価項目を定め、達成度を見ると良いのではないか。 ・町内のお祭で、ゴミを集め等のボランティア活動をしている生徒の姿を見た。カラの容器など持っている人に「ゴミ貰いますよ」「これに入れて下さい」と、落ちているゴミを拾うだけでなく、自ら声掛けをして集めて歩く生徒をたくさん見た。笑顔で活動してくれてとても頼もしい姿だった。 ・目標値は達成しているが評価方法の適正判断は現在の提示資料では判断が難しい。割合の算出方法を業務平均時間の提示をお願いします。
		業務改善を行い、働き方改革を進める。	①業務改善について日課を見直すなど校内の体制やルールを整理し、改善を図る。 ②定時退校日を徹底し、在校時間の縮減を図る。	①時間外勤務が月45時間以内の職員の割合（年平均）【教頭】	①85%	①85%		①100%	①A	①分掌、学年、各担当で行事等予定を確認し、計画的に業務を進めることができた。 ②職員全体として時間を意識した業務遂行により退校時間が安定してきている。時間外勤務が多い職員の固定化が課題である。	①分掌、学年、各担当や行事ごとの業務分担について調整を続ける。見通しをもって業務を進め、各行事の見直しによる業務改善を行う。 ②毎週水曜日の定時退校を徹底する。	○			

【j：自己評価　評価】A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。